

平成28年度事業評価シート

事業名	72100	道路橋りょう管理事業費	担当課	基盤整備部 維持課	内線
					2322
予算	会計	1 一般会計	総合計画	基本分野	5 基盤・安全
	款	7 土木費		個別分野	2 道路
	項	2 道路橋りょう費		施策の概要	3 将来の負担を軽減する老朽化対策の推進
	目	1 道路橋りょう総務費			
根拠計画					
実施計画事業 道路橋りょう管理事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・道路・橋りょう施設等を良好な状態で利用できるよう維持されている。		
概要	事業の実施手法(手段)	・トンネル、融雪装置の光熱費の支払いや保守点検、修繕の実施により適切に管理する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	融雪装置、JRアンダーパスなどの光熱水費の支払い 融雪装置等保守点検 トンネル等防災設備保守点検						
	活動指標	算出根拠等	目標値					
			実績値					
		算出根拠等	達成率(%)					
			目標値					
		算出根拠等	実績値					
			達成率(%)					
	成果指標	算出根拠等	目標値					
			実績値					
		算出根拠等	達成率(%)					
			目標値					
		算出根拠等	実績値					
			達成率(%)					
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額
		歳出(千円)		(A) 55,211	69,905			
受益者負担(使用料・負担金等)		55,211	69,905					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源								
受益者1件当たり(円)		(A/B) 607	777					
コスト指標	受益者	道路交通網の利用者	(B) 90,938	90,024				

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・安全・安心な道路環境を保全するために必要な業務であり、適正な管理業務を行うことに対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・施設の管理者である、市が実施するものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・適正な施設の管理がなされている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・施設の維持管理に要する費用であり、施設の経年劣化により今後コストが増加する可能性がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・施設の保守点検により正常稼働に努める。 ・維持管理経費の高額なものについては、経費削減方法を検討する。 ・更新時期に、維持管理コストに配慮した施設選定を行う。
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・市民が安全に利用できるように道路施設の維持管理を継続して適正に実施する。
----------------------	---------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・道路利用者の安全性が担保される範囲内で融雪装置の稼働温度やセンサーの設定変更について研究し、コスト削減方法を検討する。
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・市民が安全に利用できるように道路施設の維持管理を継続して適正に実施する。					

平成28年度事業評価シート

事業名	72110	急傾斜地崩壊対策事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2326
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	7	防災
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	3	自然災害防止施設の充実
	目	1	道路橋りょう総務費				
根拠計画	急傾斜地崩壊対策事業整備計画						
実施計画事業	急傾斜地崩壊対策事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	急傾斜地崩壊危険箇所に居住する市民	対象者数	158 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	急傾斜地崩壊対策施設の整備を行い、崩土による被災から市民の生命・財産を守る。		
概要	事業の実手法(手段)	重力式擁壁・もたれ擁壁・法面工・落石防護柵等を設置する。		

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	下ミセノ地区 急傾斜地崩壊対策工 L=24.7m 吹付砕工(300×300)L=182m、A=120㎡ 無数河地区 測量設計業務 1式							
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
活動指標	算出根拠等	目標値						
		実績値						
		達成率(%)						
	算出根拠等	目標値						
		実績値						
		達成率(%)						
成果指標	急傾斜地崩壊対策施設整備延長	目標値	m	150	70	45	45	20
		実績値		25				
		達成率(%)		17				
	算出根拠等	目標値						
		実績値						
		達成率(%)						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)		(A)	22,047	48,000			
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			8,000	32,000			
	一般財源			14,047	16,000			
	受益者1件当たり(円)		(A/B)	139,538	303,797			
コスト指標	受益者	急傾斜地崩壊危険箇所に居住する市民	(B)	158	158			

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)等の区域指定に関する説明会の中で、対策工事の早期着手を望む声が多い。 ・市内に急傾斜地崩壊危険箇所は、平成26年度末現在で895箇所指定されているが、対策工事に着手しているのは約10%程度である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	県は、区域内に災害時要援護者関連施設等がある箇所を優先して順次対策工事を実施しているが、すべての危険箇所の対策工事が完了するには膨大な時間と費用が必要である。 ・公共工事採択基準以下(10戸未満)の小規模なものについては市が実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	急傾斜地崩壊対策事業整備計画に基づいて対策工事を実施しており、工事完成箇所については市民の生命財産を守るものとなっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	市が事業主体の場合、県の補助金(2/3)を受けて事業実施している。県の財政は厳しい状況にあり、計画に基づく事業費確保が難しい状況である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	市長公約である「安全に暮らせる環境づくり」のため、自然災害から市民の生命・財産を守る上で、事業の重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・対策工事が必要な箇所は多く、早期に事業を進め効果を発揮させる必要があるため、県に対し今後も継続して事業費拡大を要望していく必要がある。
---------------------------------------	--

(参考)前年度事業評価結果(二次評価)	・急傾斜地崩壊対策事業整備計画に基づく整備を進める。
---------------------	----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・急傾斜地崩壊対策事業整備計画に基づいた事業の進捗が図られるよう、県に対し毎年予算確保を要望している。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	急傾斜地崩壊対策整備計画に基づき整備を進める。											

平成28年度事業評価シート

事業名	72120	道路台帳管理事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	2	道路
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	4	生活に身近な道路の環境の向上
	目	1	道路橋りょう総務費				
根拠計画							
実施計画事業 道路台帳管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・道路法に基づき、道路台帳を整備することで適切に道路が維持管理されている。 ・未登記路線を整理し、市道の適正な管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道路整備完了箇所や占用物変更箇所を台帳に反映して、正確な道路台帳を整備し活用する。 ・市道未登記箇所の測量を行い、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		・道路台帳の更新 ・未登記路線の調査、分筆測量等							
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		道路台帳更新路線数	本	目標値	170	170	170	170	170	
				実績値	124	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	73	-	-	-	-	
		算出根拠等		目標値	-	-	-	-	-	
				実績値	-	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	
		算出根拠等		目標値	-	-	-	-	-	
				実績値	-	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-	
		算出根拠等		目標値	-	-	-	-	-	
				実績値	-	-	-	-	-	
	算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-		
	算出根拠等		目標値	-	-	-	-	-		
実績値			-	-	-	-	-			
算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	62,478	66,000	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)			85	40	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			-	-	-	-	-		
	一般財源			62,393	65,960	-	-	-		
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	687	733	-	-		
	受益者	道路交通網の利用者	(B)	90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・安全・安心な生活環境並びに道路環境を保全するために必要な業務であり、適正な管理業務を行うことに対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路法に基づき、市道管理者である市が実施するものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・適正な事務処理がなされている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あげられている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事務的経費のみでありコスト縮減の余地はない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・未登記路線が早期に解決できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・道路を維持管理するためには必要であり、道路法で設置が定められていることから継続して実施する。 ・未登記路線が早期に解決できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・道路を維持管理するためには必要であり、道路法で設置が定められていることから継続して実施している。 ・未登記路線が早期に解決できるよう、引き続き積極的に取り組んでいる。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・道路を維持管理するためには必要であり、道路法で設置が定められていることから継続して実施する。 ・未登記路線が早期に解決できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく。						

平成28年度事業評価シート

事業名	72200	道路橋りょう維持修繕事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2326
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	
	款	7	土木費		個別分野	2	道路	
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	4	生活に身近な道路の環境の向上	
	目	2	道路橋りょう維持費					
根拠計画								
実施計画事業 道路橋りょう維持修繕事業								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民及び市道通過車両	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・道路の走行性及び安全性の維持・向上を図り、安心して快適な道路網を確立する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・側溝、舗装、橋りょう等の道路施設の維持修繕を実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・道路修繕、側溝修繕、舗装修繕、橋梁修繕等 工事契約件数 N=401件								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		道路修繕工事の契約件数	件	目標値						
			実績値	134	-	-	-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)						
		側溝修繕工事の契約件数	件	目標値						
			実績値	148	-	-	-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)						
		舗装修繕工事の契約件数	件	目標値						
			実績値	105	-	-	-	-	-	-
			算出根拠等	達成率(%)						
		橋りょう修繕工事の契約件数	件	目標値						
			実績値	13	-	-	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)							
	成果指標			目標値						
			実績値							
算出根拠等		達成率(%)								
			目標値							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A) 707,593	743,500	-	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)			3,731	6,000	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			97,904	22,000	-	-	-		
	一般財源			605,958	715,500	-	-	-		
	コスト指標			(A/B)	7,781	8,259	-	-		
	受益者 全市民及び市道通過車両 (B)			90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・生活道路に関する舗装や側溝の安全確保及び利便性向上についての地域要望はまちづくり協議会が発足したことで、更に増加している。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する道路、橋りょう等の維持修繕であり、市が事業主体であることを見直す余地はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・危険性が高いと判断されたものは早期対応することで、管理者職能による事故軽減に努めている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・コスト削減や効率的な維持管理にも取り組んでいるが、パトロールや町内要望等を受けての対処療法的な修繕が大半である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・生活に密着した道路、橋りょう等を適切に修繕することで、良好な道路環境を確保し、市民生活や利便性の向上に寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・地域要望やパトロールで見える対処療法的な修繕に加え、効率的な維持修繕を行うことで長期的コスト削減を図るため、予防保全的な修繕を計画的に進めていく必要がある。
--	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・コスト削減や効率的な維持管理の観点から、中長期的な修繕の整備基準を確立する必要がある。 ・協働のまちづくりの枠組みのなかで、地域の選択により緊急性の高いものから迅速に対応する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・協働のまちづくりの枠組みの中で、地域の選択により緊急性の高いものから迅速に対応していく。 ・道路防災点検結果に基づいた、緊急性の高い箇所を計画的に行っていく。
------------------	---

担当課における次年度の考え	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・引き続き、道路施設の修繕を行うことで、道路の安全性を確保し、安心して快適な道路網を維持する。											

平成28年度事業評価シート

事業名	72210	道路清掃事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	2	道路
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	4	生活に身近な道路の環境の向上
	目	2	道路橋りょう維持費				
根拠計画							
実施計画事業 道路清掃事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 道路清掃や草刈りを行うことによって、道路環境の保全や景観向上及び安全の確保が図れている。 集落間を結ぶ市道の除草等により、市民及び観光客等の通行の安全確保が図れている。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 道路上の粉塵、ごみの除去及び草刈り、側溝の清掃を実施する。 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	道路清掃、草刈り等の実施								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		道路清掃延長	算出根拠等	km	目標値	17	17	17	17	17
					実績値	17	-	-	-	-
		達成率(%)				100	-	-	-	-
		道路草刈り等延長	算出根拠等	km	目標値	49	49	49	49	49
					実績値	49	-	-	-	-
		達成率(%)				100	-	-	-	-
		成果指標	算出根拠等	目標値	-	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-	
			達成率(%)				-	-	-	-
			算出根拠等	目標値	-	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-	-
	達成率(%)				-	-	-	-		
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
歳出(千円)			(A)	5,645	6,000	-	-			
受益者負担(使用料・負担金等)										
その他特定財源(国・県支出金・起債等)										
一般財源			5,645	6,000	-	-	-			
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B)	62	67	-	-		
	受益者	道路交通網の利用者		(B)	90,938	90,024	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか 	A (2) ニーズが高い	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な生活環境並びに道路環境を保全するために必要な業務であり、道路清掃を行うことに対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか 	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	<ul style="list-style-type: none"> 施設の管理者である、市が実施するものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか 	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	<ul style="list-style-type: none"> 道路の美観等を保つために必要な業務であり、景観向上等に成果があがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か 	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	<ul style="list-style-type: none"> 作業に即した適切な歩掛りにより業務を委託している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 	A (2) 効果があった	A	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 道路の安全確保や維持管理、景観保全のために継続して実施する。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 道路の安全確保や維持管理、景観保全のために継続して実施している。 安全な通行を確保するため、道路の環境整備に努めている。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 道路の安全確保や維持管理、景観保全のために継続して実施する。 					

平成28年度事業評価シート

事業名	72400	交通安全対策事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	8	安全
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	1	交通事故の防止
	目	4	交通安全対策費				
根拠計画							
実施計画事業 交通安全対策事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・交通事故の危険性がある箇所交通安全施設を設置し、適正な維持管理を行って、安全性の向上並びに事故防止が図られている。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道路反射鏡・ガードレール・道路照明・道路区画線等の新設や修繕を行う。 ・交通安全施設等の適正な維持管理を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		・ガードレール・防護柵設置、修繕 L= 2,477.7m(うち、新設 466.7m) ・道路反射鏡設置、修繕 N= 44基(うち、新設 19基) ・区画線設置、修繕 L= 32,520.7m(うち、新設 26.0m) ・道路照明灯設置、修繕 N= 82基(うち、新設 16基)						
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		ガードレール・防護柵設置	m	目標値	678	800	600	600	600
				実績値	467	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	69	-	-	-	-
		道路反射鏡設置	基	目標値	55	41	25	25	25
				実績値	19	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	35	-	-	-	-
		道路照明灯のLED化	基	目標値	25	33	30	30	30
				実績値	82	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	328	-	-	-	-
		算出根拠等		目標値		-	-	-	-
				実績値		-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-
		算出根拠等		目標値		-	-	-	-
	実績値			-	-	-	-		
算出根拠等		達成率(%)		-	-	-	-		
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A) 54,947	36,646	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)					-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			7,954	3,641	-	-	-	
	一般財源			46,993	33,005	-	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B) 604	407	-	-	-	
	受益者	道路交通網の利用者	(B)	90,938	90,024	-	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・安全・安心な道路環境を向上させるために必要な業務であり、交通安全施設を設置すること並びに交通事故防止に対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路管理者である、市が実施するものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・地元要望や危険箇所施設を設置しており、交通安全に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・照明灯のLED化を進めており、電力消費の削減を推進している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・最大限の効果発揮する交通安全施設の選定を行う。 ・維持管理に配慮して施設選定を行う。 ・維持管理や環境に配慮した資材や工法の選定により、維持管理経費の抑制を図る。
--	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・交通安全施設や道路照明の設置については、イニシャルコストのみならず、ランニングコストや環境にも配慮した資材・工法の検討を行って事業を推進する。 ・引き続き、交通安全施設の適正な管理及び管理経費の節減に努める。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・道路照明の省電力化のため照明灯のLED化を実施し、ランニングコストの節減を図っている。 ・道路照明として必要な照明灯以外は、町内会等へ所管替えを行う。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・交通安全施設や道路照明の設置については、イニシャルコストのみならず、ランニングコストや環境にも配慮した資材・工法の検討を行なって事業を推進する。 ・引き続き、交通安全施設の適正な管理及び管理経費の節減に努める。					

平成28年度事業評価シート

事業名	72410	バリアフリー対策事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2326
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	2	道路
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	4	生活に身近な道路の環境の向上
	目	4	交通安全対策費				
根拠計画	バリアフリー(歩車共存型道路、段差解消)整備5ヶ年計画						
実施計画事業	バリアフリー対策事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	歩行者が安全で快適に利用できる環境づくりに向け、ユニバーサルデザインの観点から道路施設のバリアフリー化を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・既設側溝改修・蓋設置、歩道段差解消、グレーチング蓋の細目化 ・歩車共存型道路の整備		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	・歩車共存型道路整備(歩行空間整備) L=445m								
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
	活動指標	歩車共存型道路整備(歩行空間整備)延長(累計)	m	目標値	3,600	4,200	4,800	5,400	6,000	
				実績値	3,363	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	93	-	-	-	-	
				目標値						
				実績値						
		算出根拠等		達成率(%)						
	成果指標			目標値						
				実績値						
		算出根拠等		達成率(%)						
				目標値						
				実績値						
算出根拠等			達成率(%)							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	111,380	90,000	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)									
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				58,196	38,500	-	-		
	一般財源				53,184	51,500	-	-		
	受益者1件当たり(円)			(A/B)	1,225	1,000	-	-		
コスト指標	受益者	道路交通網の利用者	(B)	90,938	90,024	-	-			

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・安全・安心な道路環境を向上させるために必要な事業であり、市街地では限られた道路敷地内で歩行空間を確保する歩車道共存型道路の整備に対するニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路管理者である、市が実施するものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・道路の段差解消や歩行空間を確保することで、高齢者等が安全で利用しやすい道路環境を提供することに寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・計画に沿って、消融雪側溝と同時整備を行うことでコスト縮減等に努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・維持管理や環境に配慮した工法や資材の検討を行い、コスト縮減等に引き続き取り組む。
---------------------------------------	---

(参考)前年度事業評価結果(二次評価)	・今後の整備計画を策定する必要がある。
---------------------	---------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・維持管理や環境に配慮した工法や資材の選定を行い、更なるコスト縮減等に努める。
------------------	---

担当課における次年度の考え	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・バリアフリー(歩車共存型道路、段差解消)整備5ヶ年計画に基づき整備を進める。											

平成28年度事業評価シート

事業名	72420	臨時駐車場対策事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	2	道路
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	5	道路利用の快適性向上
	目	4	交通安全対策費				
根拠計画							
実施計画事業 臨時駐車場対策事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山祭や大型連休、お盆期間など駐車場が満車となり、交通渋滞が発生するおそれがある場合、臨時駐車場の開設等により、市内の渋滞緩和が図られ、観光客の利便性が向上している。		
概要	事業の実施手法(手段)	・臨時駐車場の開設、交通誘導員の配置、案内看板の設置、駐車場から観光客を運ぶシャトルバスの運行		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績		・春・秋の高山祭、ゴールデンウィーク、お盆に、交通渋滞対策本部を設置した。 ・臨時駐車場は秋の高山祭、ゴールデンウィーク、シルバーウィーク期間中に開設したが、春の高山祭は雨天のため開設せず、お盆は開設までの混雑に至らなかった。						
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		臨時駐車場開設	箇所	目標値	11	11	11	11	11
				実績値	7	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	64	-	-	-	-
		算出根拠等		目標値					
				実績値					
		算出根拠等		達成率(%)					
		成果指標	算出根拠等		目標値				
					実績値				
			算出根拠等		達成率(%)				
			算出根拠等		目標値				
					実績値				
	算出根拠等			達成率(%)					
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
歳出(千円)		(A)	17,453	19,670	-	-			
受益者負担(使用料・負担金等)			1,632						
その他特定財源(国・県支出金・起債等)									
一般財源			15,821	19,670					
受益者1件当たり(円)		(A/B)	192	218					
コスト指標	受益者	道路交通網の利用者	(B)	90,938	90,024				

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・観光客に便利で快適なおもてなしをするという観点や渋滞による市民生活への影響を考慮すると非常にニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・近年、増加傾向にある民営駐車場の混雑の状況に配慮しながら、臨時駐車場を開設している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・市内既存駐車場の利用状況をパトロール等により情報収集し、混雑の状況に合わせた臨時駐車場を開設している。また、臨時駐車場を開設した際に、市民や駐車場利用者及び駐車場経営者からの苦情もほとんどなく、渋滞緩和を図れている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・過去のデータから推定して適切な規模の臨時駐車場開設を行っている。 ・中心市街地の渋滞対策に寄与する臨時駐車場への誘導を、より効果的に行う検討をしている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・臨時駐車場開設場所や交通誘導員の配置箇所等の検討 ・シャトルバスの効果的・効率的な運行によるコスト削減
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・国内外の観光入込客の増加にも対応できるよう、臨時駐車場開設時間やシャトルバスの台数など、効果的・効率的な運営方法を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・市中心部への大型バスの進入について、駐車場案内システムの利用や細やかな連絡体制の確立により収容能力を超えない台数で制御して、渋滞発生を抑制している。 ・高山インターからの交通量増加に適応した駐車場案内看板の設置や、FM放送等によるリアルタイムでの情報発信を行うことにより、効率的な運営を行っている。
------------------	---

担当課における次年度の考え	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	・これまでに蓄積されたデータや駐車場案内システム、FM放送、インターネットを活用して、効率的な臨時駐車場開設業務を継続して実施する。						

平成28年度事業評価シート

事業名	72500	除雪対策事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線
							2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全
	款	7	土木費		個別分野	2	道路
	項	2	道路橋りょう費		施策の概要	6	官民協働による除雪の推進
	目	5	除雪対策費				
	根拠計画	除雪計画、消融雪側溝整備57年計画					
実施計画事業	除雪対策事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	道路交通網の利用者	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心、安全な暮らしを守るため、冬期間の道路除雪及び除雪補完作業による交通確保がされている。 高齢者や女性でも無理なく安全に利用でき、地域住民が協働で雪まじに取り組める環境の整備を図られている。 除雪計画の周知を図り、除雪に対する市民の協力等が得られている。 中心市街地等において、高齢者等が安全に利用できる消融雪側溝を整備することで、市民協働による効率的な「雪まじ」に取り組める環境が整備されている。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 委託業務による除雪作業の実施 凍結による事故防止のための薬剤購入 消融雪側溝の整備 除雪計画書を町内会に配布 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 除雪延長 車道 939km、歩道 70km 合計 1,009km 除雪車購入(小型トラー) 2台 消融雪側溝整備 L=302m 								
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		除雪延長	km	目標値	1,009	1,009	1,009	1,009	1,009	
				実績値	1,009	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-	
		消融雪側溝整備延長(累計)	m	目標値	3,200	3,600	4,000	4,400	4,800	
				実績値	3,033	-	-	-	-	
		算出根拠等		達成率(%)	95	-	-	-	-	
		除雪計画書配布部数	部	目標値	400	400	400	400	400	
				実績値	400	-	-	-	-	
算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-			
成果指標		目標値	-	-	-	-	-			
		実績値	-	-	-	-	-			
	算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-			
		目標値	-	-	-	-	-			
		実績値	-	-	-	-	-			
	算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き超過・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額		
	歳出(千円)			(A)	379,338	566,200	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)			-	-	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			52,903	69,000	-	-	-		
	一般財源			326,435	497,200	-	-	-		
	受益者1件当たり(円)			(A/B)	4,171	6,289	-	-		
コスト指標	受益者	道路交通網の利用者	(B)	90,938	90,024	-	-	-		

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・安全・安心な生活環境並びに道路環境を保全するために必要な業務であり、除雪事業に対する市民ニーズは高い。 ・中心市街地で道路幅員が狭く雪を堆積する場所が少ない地域では、良好な除雪状況を確保したいという市民のニーズが強い。 ・除雪状況を良好にしたい願いは他の市街地の市民においても強く、整備地域の拡大を求められている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路管理者である市が実施するものである。 ・消融雪側溝整備は、住民全体の除雪体制を構築する上で整備の重要性が高く、市道等の道路側溝を改修して利用することから、市が実施することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・冬の安全な交通の確保及び市民の雪まじの労力軽減に寄与している。 ・投雪口の箇所数を限定しているため、町内の意見を取り入れて位置を確定することで市民の利便性を図っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向けた実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・通勤・通学時間に間に合わせる除雪や、気温並びに積雪深に応じた除雪作業を実施している。 ・大雪による除雪対策支援を要望するなどして、特別補助金による経費の負担軽減を図っている。 ・消融雪側溝は特殊な構造であるため比較的高額となる。そのため、既設水路を利用可能な箇所は、簡易融雪側溝とすることでコスト削減を図っている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市民の雪まじの労力を軽減している。 ・市長公約である安全に暮らせる環境づくりのため、住民全体の除雪体制を構築する上で、消融雪側溝整備の重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 市の除雪方法を、冬期を迎える前より早期に市民に周知する。 除雪業者の確保や除雪路線を検討し、効果的な除雪を実施する。 消融雪側溝整備は比較的高額となる。そのため、既設水路が利用可能な場所は、簡易融雪側溝とすることでコストの削減を図る。
---------------------------------------	---

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 冬期における市民の雪まじに係る負担軽減につながる取り組みについて、継続的に研究・検討する必要がある。 除雪業者の確保に努める必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 町内会を通じて、除雪基準や方法を周知する。 協働のまちづくりの枠組みの中において、今後地域で行う除雪の方法等について検討している。 既設水路を利用可能な箇所は消融雪側溝メーカーの部品を利用した簡易融雪側溝とすることでコスト削減を図っている。
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 冬期における市民生活の安全確保並びに雪まじの負担軽減のため、除雪事業を引き続き実施する。 除雪計画の周知徹底、除雪に対する市民の協力等呼び掛けるためにも継続して実施する。 消融雪側溝について、工法や資材の比較検討によるコスト削減に引き続き取り組む。 						

平成28年度事業評価シート

事業名	73100	河川清掃事業費		担当課	基盤整備部 維持課	内線	2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	2	環境・景観
	款	7	土木費		個別分野	2	生活環境
	項	3	河川費		施策の概要	3	公害対策の強化
	目	1	河川維持費				
根拠計画							
実施計画事業		河川清掃事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 河川堤防の除草を実施して、河川環境が保全されている。 河川内のごみ等の清掃や雨水排水暗渠等の土砂清掃を行い、排水機能を確保して水環境が保全されている。 市街地周辺の河川清掃を行うことにより、市民のみならず観光客にも良好な河川環境が提供され、高山市のイメージ向上が図られている。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 1級河川の堤防除草作業を地元町内会等に委託する。 河川内のごみ収集運搬、暗渠の土砂清掃を専門業者に委託する。 河川を美しくする会に委託して、市街地河川の清掃作業を実施する。 水門管理者による適正な水門管理を実施する。 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 河川堤防除草実施面積 338,000㎡ 河川清掃時に発生するごみの収集 暗渠排水の通水機能確保 水門管理者による水門管理の実施 									
	活動指標	指標名		単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31	
		河川堤防除草実施面積	目標値		㎡	338,000	338,000	338,000	338,000	338,000	
			実績値			338,000	-	-	-	-	
			算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-
		ごみ収集回数(除草収集)	目標値		回	4	4	4	4	4	
			実績値			4	-	-	-	-	
			算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-
		河川清掃回数	目標値		回	4	4	4	4	4	
			実績値			4	-	-	-	-	
			算出根拠等			達成率(%)	100	-	-	-	-
		成果指標	目標値								
			実績値								
			算出根拠等			達成率(%)					
			目標値								
実績値											
算出根拠等				達成率(%)							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額			
	歳出(千円)			(A)	24,206	24,440	-	-	-		
	受益者負担(使用料・負担金等)				6,130	6,340	-	-	-		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				18,076	18,100	-	-	-		
	一般財源										
	受益者1件当たり(円)			(A/B)	266	271					
コスト指標	受益者			(B)	90,938	90,024					

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民の河川環境保全に対する意識は高く、ニーズも高い。 ・安全・安心な生活環境並びに水環境を保全するために必要な業務であり、適正な管理業務を行うことに対する市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・美しい河川や自然環境は、高山の重要な観光資源であるため市が地域住民で構成される団体へ委託することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・身近な河川を熟知している地域住民の手によって作業が行われているため、河川環境が向上している。 ・地域住民団体の河川清掃に合わせて作業を実施しているため、河川環境が向上している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・県の共通歩掛り等によって、適正な価格で委託をしている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・環境と調和した地球にやさしいまちづくりや、誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の多い市街地周辺の河川の環境保全と、高山市のイメージアップを図るために継続して実施する。 河川等の自然環境を保全し、側溝や水路の機能を確保するために継続して実施する。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の多い市街地周辺の河川の環境保全と、高山市のイメージアップを図るために、地元団体と協働し継続して実施している。 河川等の自然環境を保全し、側溝や水路の機能を確保するために継続して実施している。
------------------	--

担当課における次年度の考え方	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の多い市街地周辺の河川の環境保全と、高山市のイメージアップを図るために継続して実施する。 河川等の自然環境を保全し、側溝や水路の機能を確保するために継続して実施する。 					

平成28年度事業評価シート

事業名	73120	普通河川整備事業費		担当課	基盤整備部 維持課		内線	2326
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5	基盤・安全	
	款	7	土木費		個別分野	7	防災	
	項	3	河川費		施策の概要	3	自然災害防止施設の充実	
	目	1	河川維持費					
根拠計画								
実施計画事業		普通河川整備事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,024 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・普通河川周囲の良好な生活環境の確保と、豪雨等による災害を防止するため、護岸や河床の整備を実施し、市民の安全と財産を守る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・雨水排水等による普通河川の溢水箇所の整備を行い、環境保全を図る。		

2 事業の推移・結果(Do)

H27の実績	・河川整備工事 契約件数 N=60件							
	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
活動指標	河川整備工事の契約件数	件	目標値					
			実績値	60	-	-	-	-
	算出根拠等		達成率(%)					
			目標値					
			実績値					
	算出根拠等		達成率(%)					
成果指標			目標値					
			実績値					
	算出根拠等		達成率(%)					
			目標値					
			実績値					
	算出根拠等		達成率(%)					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)		(A)	158,594	70,000	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			16,250				
	一般財源			142,344	70,000			
	コスト指標		(A/B)	1,744	778			
受益者		全市民	(B)	90,938	90,024			

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・住宅地周辺や農地にある河川や水路を整備することで、豪雨による家屋、田畑を浸水から守る対策として市民から要望が多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理する河川や水路の整備であり、自然災害から市民の生命・財産を守る重要な施策であるため、市が事業主体であることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・普通河川の整備で排水機能を向上させることにより、豪雨等に対する市民の安全・安心、良好な生活環境を確保している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・小河川、水路については二次製品や表面コーティングを検討し、長寿命化及びコスト縮減を図っている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・市長公約である安全に暮らせる環境づくりのため、自然災害から生命・財産を守る上でも、整備の重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・老朽化、断面不足等の普通河川を計画的に整備を進める必要がある。
--	----------------------------------

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	・引き続き、普通河川の整備を実施する。
----------------------	---------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	・対象箇所の緊急性に基づき、計画的に整備を行っている。
------------------	-----------------------------

担当課における次年度の考え方	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H27完了		H28完了予定
	・引き続き、普通河川の整備を実施する。											

平成28年度事業評価シート

事業名	74800	駐車場管理事業費			担当課	基盤整備部 維持課		内線
								2322
予算	会計	1	一般会計	総合計画	基本分野	5 基盤・安全		
	款	7	土木費		個別分野	2 道路		
	項	4	都市計画費		施策の概要	5 道路利用の快適性向上		
	目	8	駐車場管理費					
根拠計画	駐車場整備計画							
実施計画事業	駐車場管理事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民及び観光客	対象者数	90,024 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市営駐車場を適正に維持管理して、駐車場利用者の利便性を向上させ、市内の渋滞緩和を図られている。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者による駐車場の運営 計画的な機器類の改修・更新工事の実施 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H27の実績	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理による駐車場の運営 市営かじ橋駐車場バスタワー改修工事 市営えび坂駐車場他施設修繕工事 							
	活動指標	指標名	単位	目標・実績	H27	H28	H29	H30	H31
		駐車場管理運営箇所数	箇所	目標値	9	9	9	9	9
				実績値	9	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-
				実績値	-	-	-	-	-
		算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-
実績値	-			-	-	-	-		
算出根拠等		達成率(%)	-	-	-	-			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H27 決算額	H28 予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算額	
	歳出(千円)			(A) 24,193	39,136	-	-	-	
	受益者負担(使用料・負担金等)			24,193	39,136	-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			-	-	-	-	-	
	一般財源			-	-	-	-	-	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B) 266	435	-	-	-	
	受益者	全市民及び観光客		(B) 90,938	90,024	-	-	-	

3 分析・評価(Check) ※平成27年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか 	A (2) ニーズが高い	A	<ul style="list-style-type: none"> 観光客に便利で快適なおもてなしをするという観点や渋滞による市民生活への影響を考慮すると非常にニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか 	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	<ul style="list-style-type: none"> 市の所有する施設を効率的に活用し経営していただくために、指定管理者に管理運営を委任している。 但し、施設の大規模な改築更新については、協定により市が実施することになっている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか 	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	<ul style="list-style-type: none"> 市内の渋滞緩和や観光客の利便性の向上に寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か 	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理の協定更新・締結に際し、駐車場利用状況や収支実績などの調査分析により納入金等を見直し、指定管理料の適正化を実施している。 機器類の改修・更新工事については、改修箇所や工法等を検討し、コスト縮減を行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 	A (2) 効果があった	A	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安全で安心して快適に住めるまちづくりに寄与している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) 前年度事業評価結果(二次評価)	引き続き指定管理者を通じて適切な施設管理を図る必要がある。
----------------------	-------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する28年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の交通渋滞緩和、観光客の利便性向上のために継続して駐車場管理業務を実施している。 駐車場整備計画や交通規制の検討とあわせて、今後の市営駐車場のあり方や方向性について検討する。
------------------	---

担当課における次年度の考え方	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H27完了	H28完了予定
	市街地の交通渋滞緩和、観光客の利便性向上のために継続して駐車場管理業務を実施する。					